

名古屋駅地区街づくり協議会 会報 VOL.1



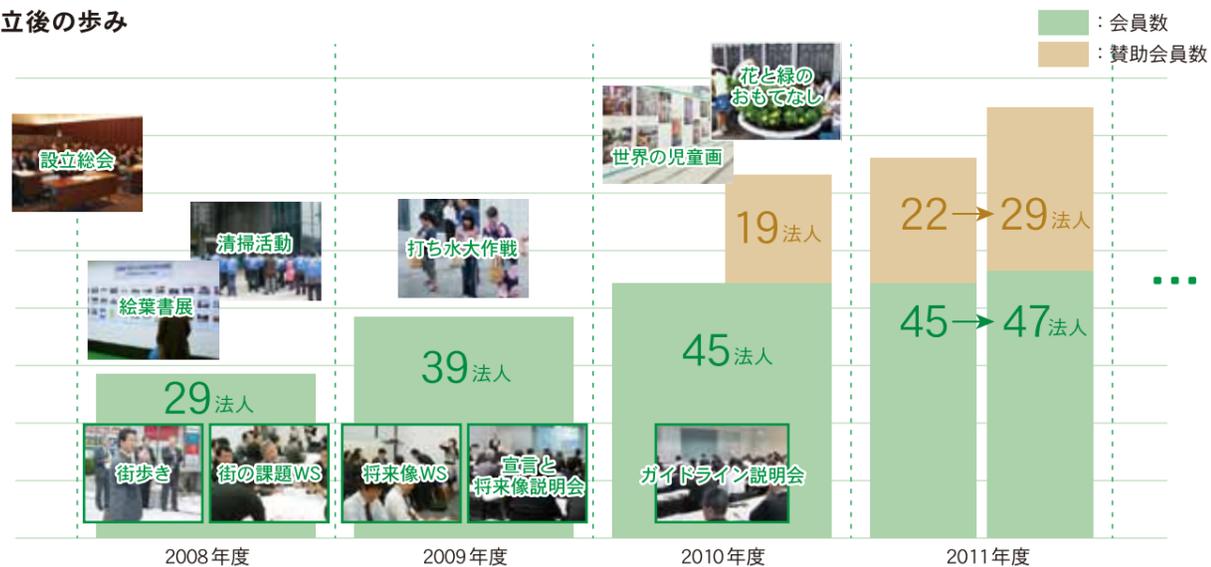
名古屋駅地区街づくり協議会
会長 神尾 隆

名古屋駅地区街づくり協議会は今年の4月で4年目を迎える事ができました。発足当初は正会員29社でしたが、現在は正会員47社、賛助会員29社と広がりを持ち、様々な活動を展開するまでになりました。これも皆様のご協力の賜物であり、感謝申し上げます。また、今年の4月には2025年の街の将来像を描いた

「名古屋駅地区街づくりガイドライン2011」を策定しました。今後、これらをより具体的に検討し、魅力的な街、安全・安心な街になるよう、議論を深めていきたいと思えます。さらには、自主財源の確保、官民協力の推進など検討を進めてまいります。

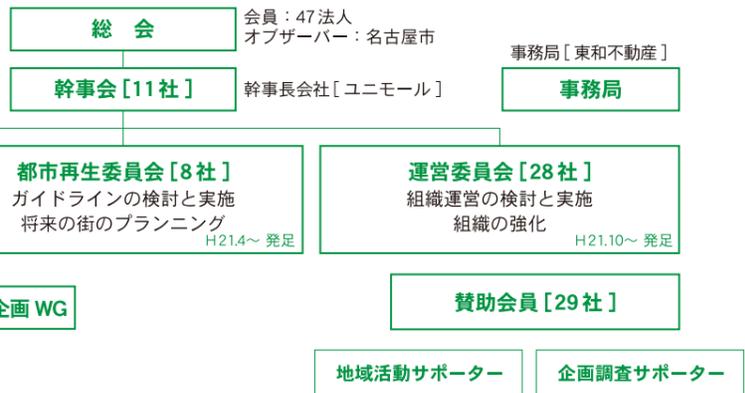
こうした中、名古屋駅地区では、現在いくつかの大型開発プロジェクトが進行中です。ガイドラインに沿い、個々のプロジェクトにて実践し、スーパーターミナルシティをめざすとともに、エリア全体の魅力向上に継続して取り組んでいきたいと思えます。

設立後の歩み



名古屋駅地区街づくり協議会の組織

会長：神尾 隆 [東和不動産(株) 相談役]
 副会長：垣尾 哲夫 [岡谷不動産(株) 取締役支配人]
 副会長：高木 洋隆 [中部電力(株) 常務執行役員 名古屋支店長]
 副会長：松林 孝美 [名古屋鉄道(株) 代表取締役副社長]
 会計監事：安井 香一 [東邦ガス(株) 取締役専務執行役員]
 会計監事：杉江 正三 [名三不動産(株) 常務]



会員企業からひとこと

歴史講座『16人のお殿様』の受講を終えて

三菱倉庫株式会社 佐野 健吾

東京から名古屋に移り住んで3年が経ち、ようやく東西南北が判ってきたところで、歴史講座『16人のお殿様』聴講のお誘いを頂き、喜んで全てに出席させていただきました。

尾張徳川という「御三家筆頭」、「七代宗春、夢の跡」程度の知識しか持っていなかったのですが、今回の森田先生の講義にて、膨大な資料の読みこなしに裏打ちされた様々なエピソードを伺っていると、まるで目の前に江戸時代の尾張名古屋が現れたかのような感覚を覚えました。なかでも、九代宗睦(むねちか)が相次ぐ天災人災に対し強い意志で立ち向かう様は、現代の日本に現れて欲しい「明君」そのものではないかと思えます。このように興味深い「名古屋」を、日本全国のより多くの人に知ってもらうことが大切ではないかと改めて感じた次第です。



エクスカーションに参加して

大橋物産株式会社 大橋 寧

7月12日と8月9日の両日、庄内川を中心としたエクスカーションが開催されました。マイクロバスでの移動中、庄内川河川事務所、愛知県河川課、名古屋市消防局のご担当者から『庄内川の変遷』『東海豪雨の爪あと』『防災への取り組み』等々を中心にご説明をいただきました。

東海豪雨時の堤防破堤地点や実際の異常水位レベルもコース途中で見ることができ、川の豹変ぶりと自然の怖さを目の当たりにし、『水害に強い安全な街づくり』という防災・減災への取り組みの重要性を改めて認識しました。猛暑の中、熱中症防止のための冷茶までご用意いただきながら(感謝)の有意義で開放的な気分での見学会でした。



名古屋を知る ～街歩きに参加して～

森定不動産株式会社 千賀 亮治

この年2回目の街歩きの会が、旧筈瀬川筋コースとして50数名の参加により開催されました。あおなみ線ささしまライブ駅前に集合し、名古屋市よりささしまライブ24再開発の進捗状況聞き、ボランティアの加藤・小出様の説明により街歩きをスタート。向野(コウヤ)跨線橋(明治32年京都・保津川橋梁としてアメリカで製作された。その後、昭和5年に名古屋に移築された)を渡り、その上から見る名古屋駅前の景色は素晴らしいものでした。橋を降りた所にある鎮火・農耕の神としてあがめられている金山毘古神を祀った金山神社や円福寺、長松寺、甘酒祭りで有名な牧野神明社、厳島神社、須佐之男神などを歩き、筈瀬通商店街を抜け、稲穂寺、椿神社、水野社と道すがら社寺を見て歩きました。

名古屋駅前をちょっと外れたところに、このような歴史のある風景があることに驚くとともに街歩きを通して、名古屋について勉強できることに感動しました。



協議会エリア

JR名古屋駅前(広小路口)を中心に
東西約1.0km、南北約1.5kmの楕円状の範囲



○：対象エリア

お問い合わせ先：office@nagoyaeki.org

会員(正会員47法人、賛助会員29法人)

【正会員】(五十音順、☆：幹事長、★：幹事会社)

- | | | | | |
|------------|--------------|--------------|-------------|------------|
| (株)安保 | 積水ハウス(株) | 東邦ガス(株) | 西日本電信電話(株) | 名三不動産(株) |
| (株)エスカ | 千福企業(株) | ★東和不動産(株) | 日本GE(株) | 名鉄協商(株) |
| NTT都市開発(株) | ちとせビルディング(株) | トヨタ自動車(株) | 表示灯(株) | ★名鉄不動産(株) |
| ★大橋物産(株) | (株)中部経済新聞社 | 豊田通商(株) | 本州建設(株) | (株)名鉄百貨店 |
| (株)OVA21 | 中部電力(株) | (株)ナゴヤキャッスル | (株)毎日新聞社 | (株)名鉄レジャック |
| 岡谷不動産(株) | (株)通信 | ★名古屋地下街(株) | (株)毎日ビルディング | 学校法人モード学園 |
| 近畿日本鉄道(株) | DHC名古屋(株) | (株)名古屋交通開発機構 | 三井物産(株) | 森定不動産(株) |
| 錦成ビル(株) | ★東海旅客鉄道(株) | ★名古屋鉄道(株) | ★三井不動産(株) | (株)森精機製作所 |
| ★三交不動産(株) | 東京建物(株) | 名古屋ビルディング(株) | 三菱倉庫(株) | ★郵便局(株) |
| | | | ★三菱地所(株) | ☆(株)ユニモール |

【賛助会員】(五十音順)

- | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------------|---------------|
| (株)伊藤建築設計事務所 | (株)きんでん | (株)創建 | (株)トヨタエンタプライズ | (株)乃村工務社 |
| (株)大垣共立銀行 | 三機工業(株) | 大成建設(株) | 中日本建設コンサルタント(株) | パナソニック電気(株) |
| (株)大林組 | (株)三清社 | 高砂熱学工業(株) | (株)日建設計 | プロミス(株) |
| 鹿島建設(株) | 清水建設(株) | (株)竹中工務店 | (株)日本設計 | 三輪不動産研究所 |
| (株)関電工 | 新菱冷熱工業(株) | 中日本興業(株) | 日本電話施設(株) | 名鉄ビルディング管理(株) |
| (株)共立総合研究所 | 須賀工業(株) | (株)トーエネック | (株)ニチベイ | |

幹事会をふりかえって

西尾 賢治 幹事長



幹事会は毎月1回開催し、各専門委員会での活動内容や、運営全般にわたる諸問題について論議するとともに、事業執行に関わる決議をしております。そのほか、街づくりを専門とする学識者や実務者を講師にお招きして、シンポジウムやセミナーを開催し、エリアマネジメントの知識や安心・安全な街づくりに関する知識の吸収などにも取り組んでまいりました。

平成22年度には、事務局支援業務や各専門部会業務の一部を学識者や実務者に委託するなど、組織運営の強化および円滑化に努めました。また、名古屋でCOP10の開

催にあわせ、海外などからの来訪者を歓迎する日本の玄関口に相応しい緑・植栽等の環境づくりのため、花と緑のおもてなし2010へ協賛いたしました。3月の東日本大震災は未曾有の被害をもたらしましたが、津波にのまれた福島原発からは新たな問題が発生、これに起因し平成23年度に入り、この地の浜岡原発が政府の要請を受け停止しました。これに伴う電力不足に協力すべく、当協議会としての節電対応について検討し統一見解を示しました。

多くの賛助会員のご入会により、清掃活動、新年会、セミナーなどへの参加者が増え、協議会の活動はますます活発化し、行政をはじめとするさまざまな団体から注目されるようになり、マスコミにも取り上げられるようになってまいりました。

正会員、賛助会員、関係諸団体の皆様にはご指導、ご支援に感謝申し上げます。そして、今後の当協議会の一層の発展を願い、ご報告とさせていただきます。

(写真は「平成23年度 定期総会」)

活動のひとこま



平成22年度 臨時総会



平成22年度 拡大幹事会



黒壁シンポジウム



長崎シンポジウム



トークセッション



国土交通省との意見交換

事業企画委員会を振り返って

神戸 敏彦 事業企画委員長



事業企画委員会は「にぎわい、快適、安全、環境」に配慮した事業企画運営を目指して地域活動、広報・PR、イベント企画を行っております。

【平成22年度の活動概要】

毎月第2水曜日には皆様のご協力で清掃活動・違法駐輪対策を名駅北ルート、南ルート、桜通ルートで行ってまいりましたが、年度後半からは参加者が100名を超え、新たに錦通ルートを加えることが出来ました。

4月に委員会有志で丸の内フラワーフェスティバルと日本橋はな街道の視察をし、これを参考にして名駅地区に花を植える企画をすすめております。

第2回目となりました打ち水は山田雅雄副市長をはじめ約200名が参加くださいました。アドバイザーの原さんの活躍により、モード学園の生徒さんも浴衣姿で参加、多くの方々の協力で盛大に行うことが出来ました。

委員会有志による街歩きは、6月に地下街を、12月に旧笈瀬川筋コースを歩きました。また、名古屋駅「東エリア」街歩きマップを15,000部作成し、そのうち10,000部をCOP10支援実行委員会に配っていただきました。

7月～11月にかけてCOP10パートナーシップ事業と

して「世界の児童画展」を実施。7月に名古屋大学の学生による「名古屋駅地区アーバン・デザイン・プラン」の発表会、1月に「錦二丁目と栄ミナミの街づくりの取り組み」についてのセミナー、2月に森田アドバイザーによる「尾張徳川家の歴史講座」を開催、好評を得ました。

平成23年度は、第3回目の打ち水を台風の接近のため中止しましたが、「スポンサー花壇」の実施、名古屋駅「地下街」街歩きマップの作成等準備しております。



(写真は「第2回 打ち水」)

活動のひとこま



清掃活動



丸の内視察



街歩き



名古屋クリーンキャンペーンへ参加



花植え



スポンサー花壇、名古屋市と協議



ロゴ・マーク(調査アンケート実施)、Tシャツ、のぼり、

都市再生委員会を振り返って

高崎 裕樹 委員長



から柔軟な見直し、詳細化・追記を行い、進化させていくものです。

今年度は、ガイドラインに掲げた戦略を具体的に推進する活動を展開しています。特に、ガイドラインの中軸をなす「ターミナルシティ形成戦略」については、それを明確化し、具体策を立てるための議論に入っています。

名古屋駅は、新幹線・空港へのアクセスなどの広域高速交通と様々な地域内交通の拠点であり、2027年のリニア中央新幹線開通によりますますその重要性が高まります。国内随一といってよい「スーパーターミナル拠点」である駅から、賑わいと活気を街に広げるハード・ソフト両面で有効な仕掛けづくりが必要です。

名古屋駅地区は、名古屋都心部、名古屋都市圏、中部地域の玄関口として、機能の整備・充実だけでなく、名古屋らしい個性豊かな魅力ある街として成長していかなければなりません。

ガイドライン2011策定作業をした委員会メンバーの意気込み・熱意は衰えることなく、大きな夢を実現させるために大いに盛り上がっています。

(写真は「名古屋駅地区街づくりガイドライン2011」)

2010年度の都市再生委員会では、街づくりのガイドラインの策定を中心に、定例の委員会に加え、横浜や高松などの先進事例視察と意見交換会を開催し、活発な活動を行いました。

ガイドライン策定作業は、2009年度に策定した「街づくりの将来像2025」のもとに示した「戦略と施策の例」をたたき台として始まりましたが、論客揃いのメンバーが白熱した議論を重ねたため、何度も予定時間を超過してしまいました。

このガイドラインは、現段階では「指針」であり、これ

活動のひとこま



環境 WG



エクスカーショ



安全・安心セミナー

掲載記事



中部経済新聞



中部経済新聞



中日新聞



読売新聞



サステイナブル都市開発促進モデル事業

運営委員会を振り返って

鈴木 晴美 運営委員長



運営委員会では、昨年度、4つのテーマを挙げて推進してきました。

①会員の増強、②行政機関との意見、情報交換の場の構築、③地元組織と連携、④他地区・他団体と連携です。

1つ目の会員増強につきましては、平成22年4月定期総会での規約改定を受けて、6月より賛助会員等の勧誘に努め、昨年度までに20社の加入を頂きました。本年度においても同様に会員拡大を図っており、8月末現在で正会員47社、賛助会員29社となっております。また、サポーター等の定義づけを行ったことにより、清掃活動等に会員以外のより多くの方にも参加頂いています。

次に行政機関や地元、他地域との連携のあり方について検討してまいりました。まず、行政機関や地元との連携となる「地域懇談会」について、中村区役所様に相談してきましたが、コミュニティの目的が異なるため、当面難しいと判断し中村区役所様との定期的な情報交換を本年6月より開始しております。

また、昨年度実施しました「花と緑のおもてなしメイエキ2010」のような活動を通じて、地域との交流を深めていくことを、検討したいと思っております。他団体との連携「まちづくり組織連絡会」につきましては、市内の栄ミ

ナミヤ錦2丁目といったまちづくり団体との間で、お話を進めております。

その他の活動として、今後の組織運営や体制のあり方を検討するため、本年2月に長浜黒壁スクエアを視察し、当地のまちづくり協議会や関係団体、会社組織、収益事業等について勉強して参りました。

このほか、ガイドラインの作成に当たりまして「エリアマネジメント戦略」について議論し、都市再生委員会へ提言して参りました。



(写真は「花と緑のおもてなしメイエキ2010」除幕式)

活動のひとこま



「栄ミナミ」セミナー



「錦2丁目」セミナー



新年会

「花と緑のおもてなしメイエキ2010」



委員会



設置状況 1



設置状況 2



市民参加

長浜・黒壁地区視察の報告

徳島大学 矢部准教授によるご説明
(まちづくり役場にて)

本年2月2日に長浜市・黒壁地区への視察会が開催されました。

私が、当地を訪れるのは、2回目です。会社の行事の途中に数時間立ち寄り、子供と一緒に、ガラ

ス細工を作ったり、熱いガラス吹きの体験をしたり、実体験ができるおもしろい観光スポットでした。但し、観光地にしては、駐車場は遠いし、道は狭い、日常の商店が混在する何か古い街という印象のみでした。

今回は、「長浜・黒壁」は知っているが、その街づくりの背景を知るとい興味で、視察会に参加しました。参加者は、総勢15名、前日に大雪警報が発令され、大雪対策を万全で参加してくださいとの事務局連絡があるほどでしたが、当日は天気恵まれ、予定通り日程を消化しました。

長浜は、ご存知の通り、北国街道が南北に通る昔からの交通の要所であり、豊臣秀吉が初めて城持ち大名になった地であり、楽市楽座により商業が栄えました。明治になり国立百三銀行長浜支店が建てられ、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」という愛称で親しまれました。黒壁銀行周辺商店街は、かつては八つの商店街があり繁栄していましたが、モータリゼーションの発達により、郊外大型店が出店し、徐々に衰退していきました。ここからの再生が街づくりのドラマであり、再生した街を維持することの



黒壁スクエア視察の様子

難しさでもありました。

今回お話しをいただいた株式会社黒壁の笹原前社長は、この長浜再生のために、ガラス事業を研究、芸術性の高いガラス文化の事業化を核とした街づくりにより、長浜を再生させた熱い情熱をもったカリスマです。この方の凄いのは、観光地にありがちな「ただの土産物店」を自ら排除し、レベルの高い直営店に仕上げてしまう点であり、現在29店舗になりました。確かに商店街を歩いてみると、中途半端な店はなく、外観も統一感があります。また、黒壁スクエアの前にあった「ミシンの販売店」も買取り、カフェに変えています。第3セクターでありながら、行政には口を出させなかったと述べる笹原氏には、街づくりに対する並々な

らぬ意欲と自信を感じました。しかしこのカリスマでさえ、街づくりを継続することの難しさを述べていました。現在も年間約200

万人近くの観光客が訪れる地ですが、株式会社黒壁自体の経営は赤字であるとのこと(平成22年度は、NHK大河ドラマ「江」の「浅井三姉妹」効果で4年ぶりに黒字転換したとのこと 後日判明)で、ガラス文化事業は高いクオリティを追求するとコストがかかり、追求しないとクオリティが下がるとのことです。行政とのかかわりや後継者の問題など、成功した陰で色々ご苦労が有るようです。但し、近年はガラスだけではなく、町屋のホテル「季の雲」や地産地消の店舗「まちなか」の開業により新たな段階に入っています。街づくりは常に継続しており、ゴールは無いものであると教えていただきました。お時間有りましたら、長浜・黒壁にお立ち寄りください。

文：
名鉄不動産 株式会社
鬼武 光



黒壁スクエア視察の様子



札幌視察の報告



さまざまなイベントが開催される狸二条広場

4月28日、幹事会と各専門委員会の有志14名で札幌視察に行きました。午前中は札幌市役所様にご案内いただき創成川通に向かいました。都心部を貫通するアンダーパスの上、川を挟んだ遊歩公園になっています。札幌オリンピック(1972年)時に造られた大通の南北のアンダーパスを繋げた事業で整備されたものです。2003年に実施された1000人ワークショップを通して市民意見が反映され、2004年に準備工事に着手し、2011年3月に竣工しました。総延長は1,100m(トンネル部900m)、総事業費は360億円(街路補助、公園補助含む)です。創成川通を横切っていた歩道橋はなくなり、橋や欄干などは昔の面影を伝えています。その後の現地からの情報では、狸二条広場で25日間にわたってビアガーデンが開催されたそうです。

午後は札幌駅前通まちづくり株様の会議室で建設事業と会社概要をお聞きした後、札幌駅前地下通路をご案内いただきました。通行量は1日8万人だそうです。資本金は990万円で、その殆どを振興会(440店舗)と沿道隣接企業(15社)と商工会議所が出資し、札幌市が30万円を出資しています。施設の総延長は520m(総事業費252億円)で、北海道開発局区間(大通側)が160m(80億円)、札幌市役所区間(札幌駅側)360m(172億円)です。1000人ワークショップ



アンダーパス上部の遊歩道(視察翌日早朝撮影)

では、単なるトンネル通路にならないよう、回遊性、快適性、賑わいなどが求められました。総幅員は20mで中央通路が12m、イベントが開催できる憩いの空間が両側に4mずつあります。広幅員でビル接続する場合は容積率を200%UPするというインセンティブも用意されています。通路部を行政が、憩いの空間を札幌まちづくり(株)が管理しています。収入は、市からの管理受託(1,500万円：非公募での指定管理者)と憩いの空間や広告用壁面の賃貸料です。視察当時はまだ開業したばかりで何とも言えませんが、5人の従業員を抱えて台所事情は厳しいようでした。

次に、札幌大通まちづくり(株)にお邪魔しました。この会社の母体は中心市街地活性化法のTMOです。それ以来実施している都心共通駐車券事業は、年2000万円の収益事業に育っていません。行政の資本は入っていませんが、札幌市役所都心まちづくり推進課が



整備前の創成川の雰囲気(アンダーパス出入口)

会社設立以前から現在に至るまでずっと支援しています。例えば、エリアマネジメント広告やオープンカフェの実施においても、関係行政機関への協議や説明を一緒になってやってくれるそうです。その他にも、地下街入口壁面のエリアマネジメント広告、商店街入口の歩道上コンシェルジェ、企業名入りベンチなど、行政の責任感と果たしている役割の大きさに感心しました。

最期「すすきの」会場に移動し、札幌大通まちづくり(株)の皆さんのほか、札幌オオドリ大学の皆さんも加わって、街づくりの話で盛り上がりました。とても楽しい時間を過ごすことができました。

翌日、私は丸一日札幌の街を歩き続けました。そのとき時計台に書き残したコメントがホームページに掲載されています。『北海道開拓の心意気を感じました。未永く時をきざみ続ける事を望みます。』

私が二日間を通して見た札幌は、心底そのように思える街でした。

文：東和不動産 株式会社 藤井 修